

令和6年度全建賞 推 薦 調 書  
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

|                   |                                                                                                                |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ふ り が な           | みちのえきもりおかしづたみせいびじぎょう                                                                                           |
| 1. 事業(施策)の名称      | 道の駅もりおか渋民整備事業                                                                                                  |
| 2. 事業(施策)実施期間(和暦) | 令和4年 9月 30日 ~ 令和6年 11月 30日                                                                                     |
| 3. 事業費(工事費)       | 2,315 百万円(工事費 2,011 百万円)                                                                                       |
| 4. キーワード          | 盛岡・玉山の「農業」と「ひと」を紡ぎ持続可能な地域の拠点となる道の駅                                                                             |
| 5. 事業概要           | 県内有数の交通量である国道4号沿いに、盛岡市北部の玄関口として道の駅を整備した。設置場所の特性を活かした眺望や、地域出身の歌人・石川啄木を感じられる空間づくりとともに、農業とひとを紡いで持続可能な地域の拠点を目指すもの。 |

| 6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」 |                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ハード or ソフトの分類<br>:該当する方に○印   | ① ハード面 に秀でた事業                                                                                                                                                                                                                                                             | ② ソフト面 に秀でた取組                                                                                                                                                                                                                        |
| アピールする<br>1)「手段」             |                                                                                                                                                                                                                                                                           | (a)盛岡市道の駅基本計画策定時に、道の駅に求められるニーズ調査を地域づくり団体との協働によりワークショップ(3回)を行い、必要な機能を検討した。<br>(b)、(c)市内高校生や大学生によるモリのタネプロジェクトを令和2年度から開催し、若者視点の特産品開発や道の駅 PR を継続して行った。                                                                                   |
| アピールする<br>2)「秀でた成果」          | (b)、(e)建設地の地形を生かし、切土量を減らすとともに、岩手山、姫神山の眺望や田園風景を活かしたランドスケープデザインとし、道の駅の構成施設間の動線や視認性などの連携を高めた。<br>(c)建物を機能ごとに分けた分棟方式にして木造とすることで、木材の全てについて盛岡市産材を使用し、ライフサイクルコストの低減や耐久性の向上を図った。<br>(c)、(h)外気温に左右されない安定した地中熱冷暖房を整備することで節電・省エネが実現でき、CO2 及びランニングコストの低減を図るとともに、再生可能エネルギーの啓発を行うことが可能。 | (b)、(e) 岩手山、姫神山の眺望や田園風景を活かしたランドスケープデザインとし、道の駅の構成施設間の動線や視認性などの連携を高めるとともに、施設のデザイン性を高めることで、利用者に対し休憩や余暇などを過ごすサードプレイスやフォトジェニックなスポットの提供や周辺の森林を活かした周辺環境との調和が図られた空間となった。<br>(h)地域の障がい者支援団体に設計段階における設計内容について意見交換を行い、その内容を反映させた誰もが利用しやすい施設とした。 |

## 7. 特にアピールしたい点

- ・地形が小高い山であり、接続道路の国道4号から高低差があり(7m程度)、基本設計時は切土によって道路と同じ地盤にするものとしていたものを、岩手山と姫神山の眺望を最大限に楽しめる空間づくり及び切土量の低減による建設コストの縮減のために、基本設計を大幅に見直し、建築・ランドスケープが調和したデザインとした。
- ・道の駅の施設を分棟方式としたことで木造建築が可能となり、盛岡広域森林組合と発注前から協議を重ねて市産材の確保をしたうえで建築を行った。
- ・道の駅が有する機能(産直・物販、レストラン等地域連携施設)とイノベーションプラットフォームであるフューチャーセンターを整備することで、基幹産業である農業をはじめとする地域課題を解決し将来にわたり持続可能な地域を創る拠点としての道の駅を整備した。

## 8. 事業を代表する写真及びキャプション



道の駅施設群と姫神山(森の大通りから東側)

岩手山・姫神山の眺望を活かすために景観軸を設定し、建物を景観軸(森の大通り)沿いに配置している。建物間の移動に配慮し渡り廊下を設置しているが、眺望を損なわないよう設計している。建物の屋根も偏心切妻屋根とし、姫神山の形と融合させている。



レストランと岩手山(森の大通りから西側)

姫神山に相対して、日本百名山の一つである岩手山を望む。地形を活かしたことで、屋外のみならず、西側に位置するレストラン(F棟)、トイレ・休憩・情報提供施設(A棟)の屋内からも、岩手山の雄大な姿を楽しむことができる。



市産材を活用した内装と地中熱冷暖房パネル

盛岡市産材をふんだんに使用し、木のぬくもりを感じられる空間となっている。また、再生可能エネルギーである地中熱を活用した冷暖房を導入したことで、盛岡の自然や環境を体感できる。



市内百貨店での道の駅PRイベント

「モリのタネプロジェクト」では、商品開発や道の駅のPR等の活動を令和2年度から継続しており、延べ100人以上の市内高校生・大学生等が参加し、道の駅や地域を盛り上げている。

## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

### (1)位置図

- ・北東北三県のほぼ中央に位置する盛岡市は、行政機関や商業・サービス業などの業務や居住などの都市機能が集積する岩手県の県都であり、東北新幹線や東北自動車道、国道4号、46号、106号、396号、455号等が放射状に伸びる交通の結節点として、北東北の交流拠点都市としての役割を担っている。
- ・岩手山や姫神山などの秀峰を望み、北上川や中津川、雫石川などの清流が市内を流れており、豊かで美しい自然や盛岡藩城下町としての歴史、先人から受け継がれてきた伝統文化などを背景に発展してきた。
- ・道の駅設置場所である「玉山地域」は平成18年に盛岡市と合併した旧玉山村の村域で、盛岡の北の玄関口としての交流人口の拡大、基幹産業である農業の発信・発展、地域に関わる人材の育成といった地域課題が存在する。



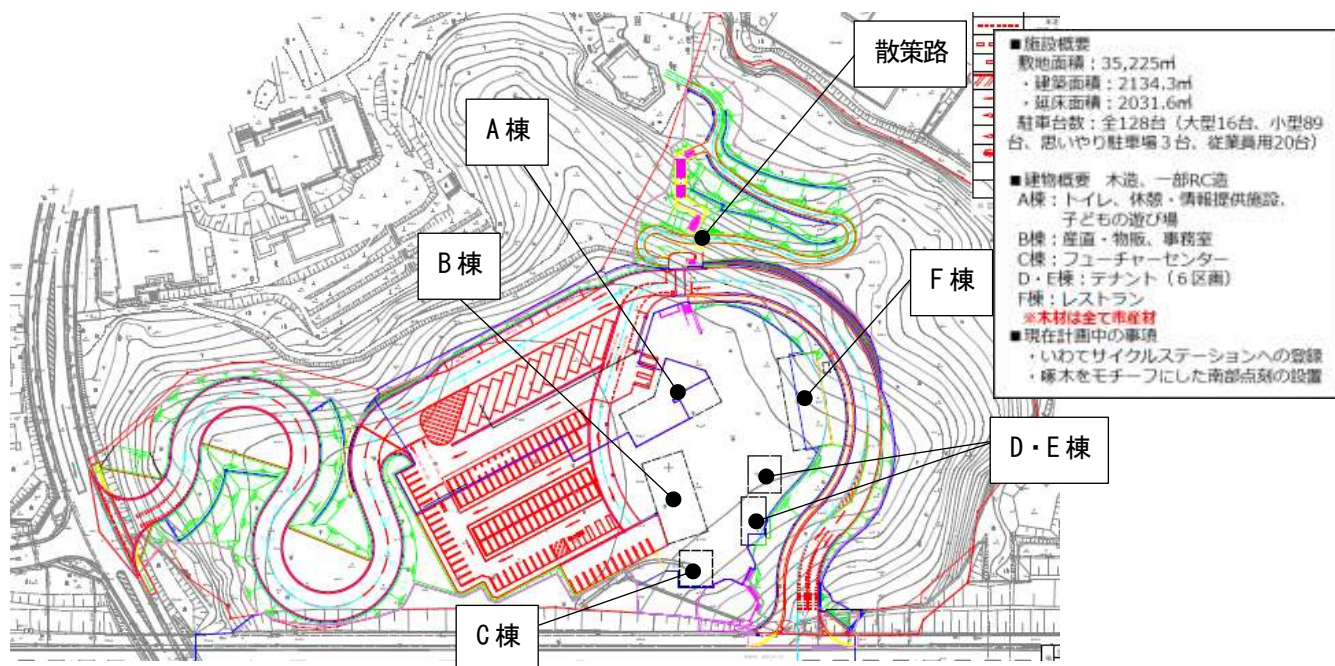
### (2)施設概要

- 岩手山と姫神山の眺望を楽しめる空間づくり(岩手山原っぱ、姫神山テラス、森の大通り(景観軸)、眺望テラス等)
- 地域の農畜産物を味わい、購入できる産直・レストラン、地域資源の活用や発信を行うテナントエリア(6店舗)
- 地域内外の人が、地域のものに触れ、つながり、新たなものを生み出す場として「フューチャーセンター」を整備  
(具体事例)
- ①「文京区学生と創るアグリイノベーション事業」 フィールドワークによる地域農業課題と大学のシーズとのマッチングによる課題解決を図る
- ②「モリのタネプロジェクト」市内の高校生や周辺大学生と地元事業者のコラボによる特産品開発や道の駅PRを行い、道の駅をはじめとする地域を盛り上げるプロジェクト
- 近接する石川啄木記念館(令和7年4月リニューアルオープン)につながる散策路を整備し、記念館や洪民公園(石川啄木1号歌碑)などと面的に連携し、道の駅と地域をつないだ啄木の里として一体で魅力を発信
- 啄木がふるさとを思い歌った6つの短歌から想起した6色を建物の外壁色として、それを使った施設ロゴデザインを採用し、啄木を想起させる空間づくり
- 外気温に左右されない地中熱冷暖房を利用することで節電・省エネ、ライフサイクルコストの低減を図るとともに、再生可能エネルギーの普及啓発を実施





## 9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕



### (3) 運営コンセプトとロゴデザイン

**運営コンセプト** つどう、つながる、つむぎあう。

地域内外のひとやもの、ことが、つどい、つながり、新たなものを生み出す場となり、将来にわたり持続可能な地域を創ることを目指すもの。

#### ロゴデザイン

姫神山と岩手山の眺望、道の駅の6つの棟、そして運営コンセプトである「つどい、つながり、つむぎあう」様子を図案化したロゴデザインにより、本道の駅の特長を視覚的に伝えている。



【道の駅もりおか渋民 ロゴデザイン】

#### 道の駅の愛称公募

道の駅づくりへの市民参画、機運醸成のため、愛称の公募を行った。  
応募総数 638 件の中から、様々な属性の方の意見を踏まえ、愛称は「たみっと」に決定した。

【道の駅もりおか渋民 愛称】

たみっと